

第14単元 直方体と立方体A

問題番号	配点	解 答(許容)	評価規準	つまずきと指導の手だて												
①	30 (各5)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>面の数</td> <td>辺の数</td> <td>頂点の数</td> </tr> <tr> <td>直方体</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>立方体</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>8</td> </tr> </table>		面の数	辺の数	頂点の数	直方体	6	12	8	立方体	6	12	8	[知技]直方体や立方体の構成要素の数を理解している。	直方体や立方体の立体模型、見取図などを基に考えさせる。
	面の数	辺の数	頂点の数													
直方体	6	12	8													
立方体	6	12	8													
②	① ③ 15 (各5)	① ウイ (イウ) ② サシ (シサ) ③ ク、セ (順不同、完答)	[知技]直方体の展開図を見て、重なる辺や点について理解している。	展開図を組み立てる操作を通して、辺どうしや点どうしのつながりを考えさせる。												
③	10	(略)	[知技]直方体の見取図を見て、その展開図をかくことができる。	とまどっている児童には、②の図を参考にさせる。												
④	① 5 ② 30 ④ (各10)	② あ、い、え、か ③ BC (CB)、EH (HE)、FG (GF) ④ い、う (いずれも順不同、完答)	[知技]直方体の面や辺の垂直、平行の関係を理解している。	立体模型を提示し、面と面、辺と辺、辺と面の関係を考察させる。												
⑤	10	(略)	[知技]直方体の見取図をかくことができる。	各辺について平行関係を確認しながらかかせるようにする。最初から定規でひかせるのではなく、フリーハンドでかかせ、概形をとらえさせるのも有効である。												

第14単元 直方体と立方体B

問題番号	解 答	評価規準	つまずきと指導の手だて
①	あ、か (順不同)	[思判表]立方体の展開図を見て、面の関係を考えている。	実際に、展開図を作成し、組み立てて、面の関係を確認する。
②		[思判表]立方体の見取図と展開図の面を対応づけてとらえている。	とまどっている児童には、模様についている3つの面が互いに接して、垂直になっていることに気づかせる。それでもとらえられない児童には、実物を示して考えさせる。

▶思考力・判断力・表現力の評価

評価	A	B	C
正答数	3問	2問	1~0問

▶主体的に学習に取り組む態度の評価

評価	A	B	C
選択内容 記述内容	3項目とも意欲的であり、学習の感想とさらに学習したいことの2観点で書かれている。	3項目ともおおむね意欲的であり、学習の感想とさらに学習したいことのどちらか1観点で書かれている。	どの項目も消極的であり、学習の感想とさらに学習したいことが書かれていない。